

【土づくり】

土づくりは農業の基本であり、品質の良い農産物を安定して生産する為に大変重要です。近年、農業環境の変化や労働力不足の為、土づくりがなござりになりがちです。土壌は土づくりをせずに放っておくと、腐植の消耗・肥料成分の流亡、作物（水稻等）による肥料成分の吸収によりやせていきます。そのため、継続的な土づくりが大切です。



営農

インフォメーション



EINOU

information

良質な農産物は土づくりから

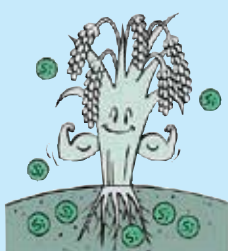
【水稻用土壌改良資材】

土壌改良資材は土壌中の有害因子を除く為の資材で、老朽化水田の改良、秋落ち田の改善に有効です。また、病気の発生や倒伏が軽減されます。特に老朽化水田の、秋落ち田では症状が改善されるまで施用する必要があります。

とれ太郎 (20キロ)

使用目的	土壌改良資材
対象作物/施肥基準	水稻 60~80k/1反

リン酸6%、苦土12%、ケイ酸30%、アルカリ40%、を含む土づくり資材。ケイ酸の吸収効率が高く、粒状のため撒きやすい土づくり資材。



ケイ酸が多いと茎や葉が硬くなり、病気や虫にも強くなります。

粒状工コ鉄ちゃん (20キロ)

使用目的	土壌改良資材
対象作物/施肥基準	水稻 100~200k/1反

酸化鉄24~26%、ケイ酸13%、アルカリ35%根を守り、丈夫な稲を作り、品質向上に欠かせない土づくり資材。



鉄分が不足すると硫化水素が発生し、根腐れを引き起こしやすくなります。

【収穫後の耕うん】

秋の収穫作業を終えたら、早めに土づくりにとりかかりましょう。稲わらの分解は地温が高いほど促進されます。石灰窒素 (20キロ/1反) を全面散布すると稲わらの腐熟促進に効果があります。石灰分が有機物の繊維をほぐし、微生物が好む土壌環境に整えます。したがって、収穫後早い時期に土壌改良資材等を施用し、稲わらをすき込みましょう。

土の健康診断をしてみませんか。



J A大阪北部では、12月に土壌分析を行います。土壌分析は、土の健康診断です。よい作物を作るためには肥料のやりすぎや無駄を見直さなければなりません。ぜひ一度J A大阪北部による土壌分析を行っててください。

- 対象者 組合員（お一人様3圃場まで）
- 対象土壌 耕作農地全般（水田含む）
- 分析費用 無料
- 申込締切日 平成25年11月15日（金）
- 申込先 各支店購買店舗及び能勢営農経済センター
（乾燥させた土壌とともにお申し込みください）
- 結果報告 平成25年12月下旬頃~平成26年1月中旬（予定）
各支店・センターから結果診断表をお渡しします。

*詳しくは各支店購買店舗・センターまでお問合せください。

